

## 検査内容変更のお知らせ

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のお引き立てを賜り、厚く御礼申し上げます。

このたび、下記の検査項目におきまして、定期的な見直しに伴い、検査受託内容の一部を変更させて頂きたくご案内いたします。

誠に勝手ではございますが、弊社事情をご賢察のうえご了承のほどよろしくお願い申し上げます。

敬具

### 記

#### 変更項目

- |                            |                              |
|----------------------------|------------------------------|
| ●第VⅢ因子                     | 項目コード:484<br>(グループコード:2407)  |
| ●第IX因子                     | 項目コード:485<br>(グループコード:2408)  |
| ●第XI因子                     | 項目コード:487<br>(グループコード:2410)  |
| ●第XⅡ因子                     | 項目コード:488<br>(グループコード:2397)  |
| ●第XⅢ因子                     | 項目コード:489<br>(グループコード:2257)  |
| ●アンチプラスミン(プラスミンインヒビター)     | 項目コード:468<br>(グループコード:2295)  |
| ●プラスミンインヒビター・プラスミン複合体(PIC) | 項目コード:1134<br>(グループコード:2067) |
| ●トロンビン・アンチトロンビン複合体(TAT)    | 項目コード:1135<br>(グループコード:2498) |

#### 変更期日

2024年5月7日(火)受託分より変更

※詳細につきましては、裏面以降の内容をご参照ください。



保健科学グループ

保健科学研究所	〒240-0005 神奈川県横浜市保土ヶ谷区神戸町106	TEL. 045-333-1661
保健科学東日本	〒365-8585 埼玉県鴻巣市天神3-673	TEL. 048-543-4000
保健科学西日本	〒612-8486 京都府京都市伏見区羽束師古川町328	TEL. 075-933-6060

変更項目および変更内容

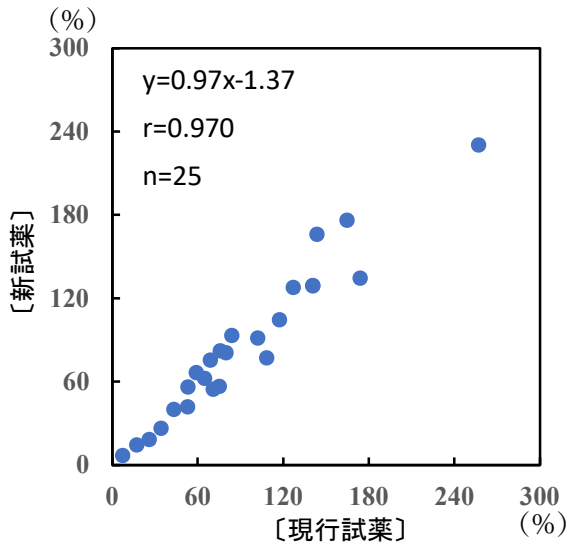
項目コード	検査項目 (グループコード)	変更内容	新	現	変更理由	総合検査 案内 掲載頁	備考
484	第ⅤⅢ因子 (2407)	基準値 ・単位	60～140 %	70～150 %	試薬変更 のため	96	
		報告範囲	0.9未満 ～ 480以上	1未満 ～ 200以上			
485	第ⅠⅩ因子 (2408)	基準値 ・単位	60～140 %	70～120 %			
		報告範囲	0.9未満 ～ 480以上	1未満 ～ 200以上			
487	第ⅩⅠ因子 (2410)	基準値 ・単位	60～140 %	70～120 %			
		報告範囲	15未満 ～ 200以上	1未満 ～ 200以上			
488	第ⅩⅡ因子 (2397)	基準値 ・単位	60～140 %	70～150 %	97		
		報告範囲	6.3未満 ～ 150以上	1未満 ～ 200以上			
489	第ⅩⅢ因子 (2257)	検査方法	合成 基質法	ラテックス 凝集法	試薬 および 測定機器 変更 のため		
		基準値 ・単位	70～140 %	63～131 %			
		報告範囲	5.5未満 ～ 150以上	10未満 ～ 140以上			
468	アンチプラスミン (プラスミンインヒビター) (2295)	基準値 ・単位	80～130 %	77～120 %	試薬変更 のため	98	
		報告範囲	10未満 ～ 150以上	10未満 ～ 150以上			
1134	プラスミンインヒビター・ プラスミン複合体 (PIC) (2067)	検査方法	CLEIA法	ラテックス 凝集法	試薬 および 測定機器 変更 のため		
		基準値 ・単位	0.8未満 μg/mL	0.8以下 μg/mL			
		報告範囲	0.04未満 ～ 40以上	0.5未満 ～ 140.0以上			
1135	トロンビン・アンチトロンビン 複合体 (TAT) (2498)	基準値 ・単位	4.0未満 ng/mL	3.0以下 ng/mL	試薬変更 のため	99	
		報告範囲	0.4未満 ～ 120以上	2.0未満 ～ 300.0以上			

\*G

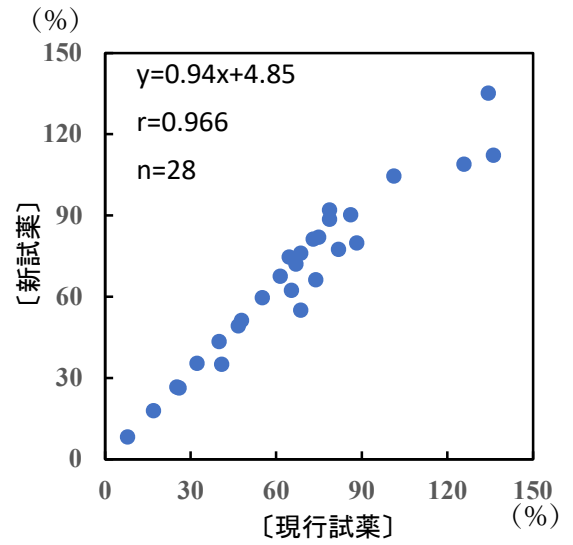
委託先:保健科学研究所(略号:\*G)

▼新試薬と旧試薬の比較

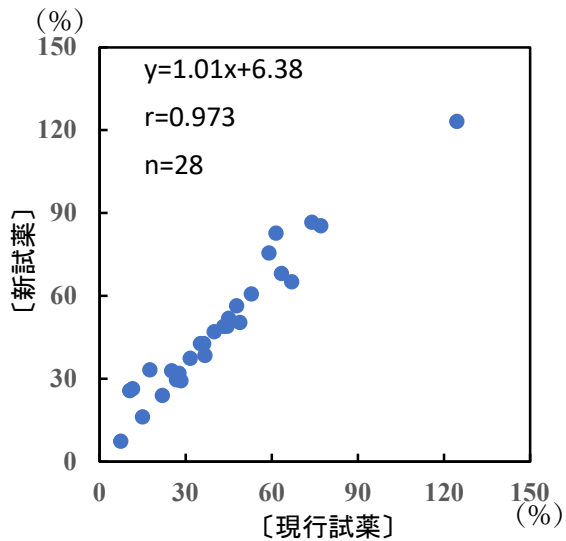
〔第ⅤⅢ因子〕



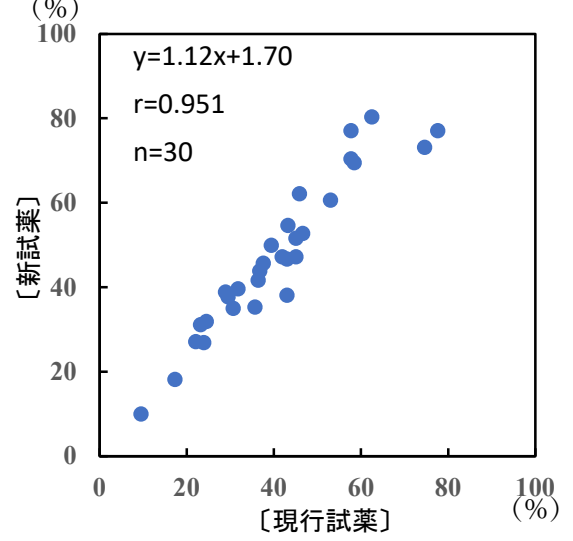
〔第ⅠⅩ因子〕



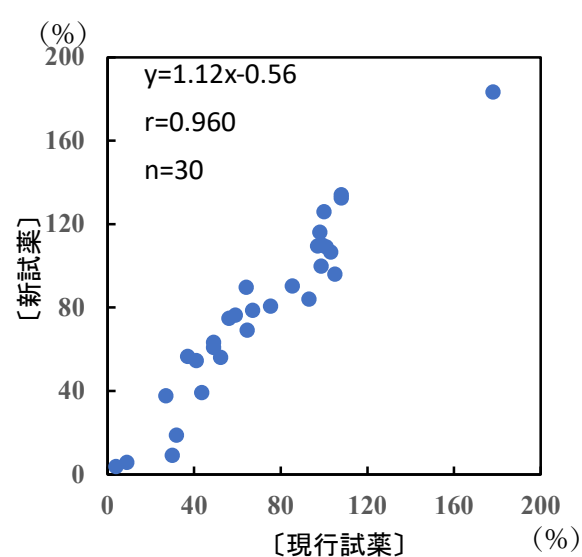
〔第ⅩⅠ因子〕



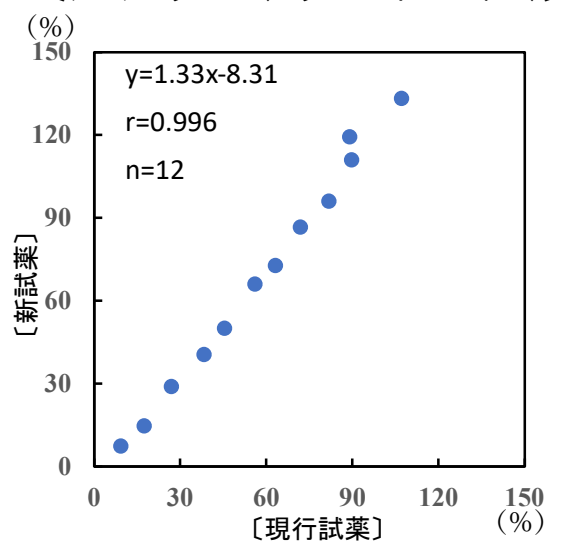
〔第ⅩⅡ因子〕



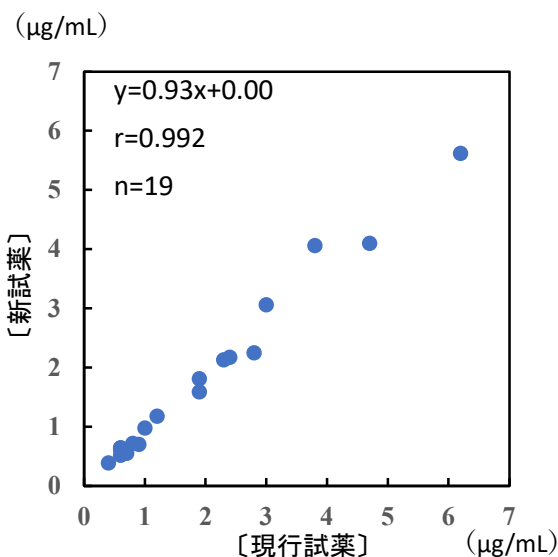
〔第ⅩⅢ因子〕



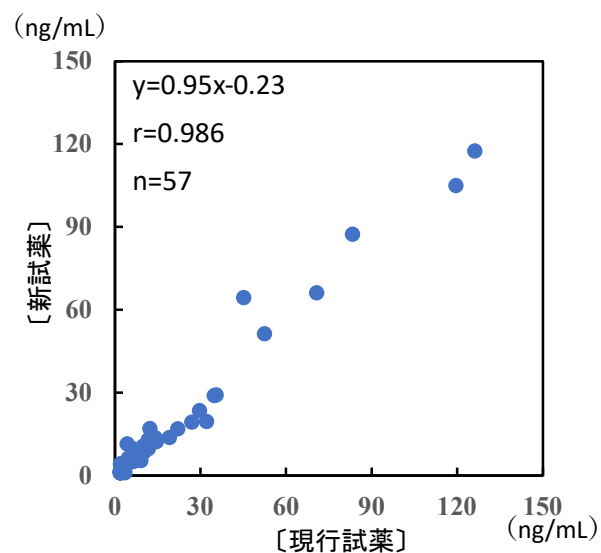
〔アンチプラスミン(プラスミンインヒビター)〕



〔プラスミンインヒビター・プラスミン複合体(PIC)〕



〔トロンビン・アンチトロンビン複合体(TAT)〕



▼検査方法参考文献

- ・徳雅幸, 他 : 全自動血液凝固測定装置CS-5100におけるレボヘム™ AT, レボヘム™ プロテインC, レボヘム™ プラスミノゲン, レボヘム™ α2アンチプラスミンの基礎性能評価, *Sysmex Journal Web*, 22(2), 10-18, 2021.
- ・大谷春華, 他 : 新規開発したレボヘム AT, レボヘム プロテインC, レボヘム プラスミノゲン, レボヘム α2-アンチプラスミンの基礎的評価, *Sysmex Journal Web*, 19(2), 1-11, 2018.
- ・菅野信子, 他 : ベリクローム FXⅢ ( Berichrom FXⅢ )を用いた血液凝固第XⅢ因子活性測定-全自動血液凝固測定装置 CS-2000iでの基礎的検討と他機種での比較-, *Sysmex Journal Web*, 12(1), 1-9, 2011.
- ・南山愉佳, 他 : 全自動免疫測定装置「HISCL-5000」および「HISCL-800」を用いた凝固分子マーカー試薬の基礎的性能評価, *医学と薬学*, Vol. 72 No.3, 513-521, 2015.
- ・柴山正美, 他 : 全自動免疫測定装置 HISCL-2000iにおける凝固線溶系分子マーカー ( TAT, PIC ) の評価, *Sysmex Journal Web*, 14(1), 1-10, 2013.